

(b) 【海鳥繁殖状況調査】



(b)【海鳥繁殖状況調査】

1) 目的

ケンボッキ島の海岸部や斜面の広い範囲で繁殖するウミネコだが、初年度の調査により大幅に繁殖地を移動させていることが判明した。本年度は複数回上陸し、時期ごとの営巣の場所・面積を把握することに重点を置く。また上陸調査及び対岸の琵琶瀬高台にモニタリング場所設定により、ウミネコ繁殖地移動の主要な原因に考えられるオジロワシの行動記録を行う。島の草地や沢地等に巣穴を掘り繁殖するコシジロウミツバメに関しては、草が伸びないうちに全島調査を行い、前年に調査できなかった場所の巣穴を把握する。

2) 調査方法

【ウミネコ】

ケンボッキ島に上陸して、5月2日及び6月7日にウミネコ繁殖地の確認を行った。去年あった海岸部分の繁殖地は消失していた。台地上の繁殖地にはウミネコが営巣していたため、ハンディGPSにて営巣場所の特定を行い、時期別の繁殖地の範囲の変動を見た。

さらに琵琶瀬高台からケンボッキ島のウミネコ繁殖地の観察を行い、ウミネコに対するオジロワシの捕食行動等の記録を蓄積し、繁殖地の縮小等に係る要因の把握を図った。



写真 5月2日の海岸部分



写真 産卵状況（6月7日）

【コシジロウミツバメ】

5月2日にケンボッキ島に上陸して、コシジロウミツバメ繁殖地の場所の確認を行った。この時、繁殖地の範囲を直接地図上に記入するか、ハンディGPSのポイント情報により繁殖地の位置の特定を行った。最終的には、カシミール（電子地図のフリーソフト）に入力して、地図化した。

また、現地にて巣密度の推定を行った。過去に行った区画法による巣密度を参考にして、

以下のとおりの目安を作成し、現地にて区分を行った。

巢密度区分	目安（平方mあたり）	想定される植生・環境
特大	土塁などの密集状態（2.5±）	土塁
大	踏み抜くくらいに高密度（0.5+）	フキ区・土塁区・ハンノキ区
中	目視にてすぐに分かる程度（0.15±）	ヨモギ区
小	散発的に巢穴がある程度（0.05±）	草原区・番屋跡
特小	さらに密度が少ない（0.01±）	ササ区

3）結果及び考察

(1) ウミネコ

ウミネコ繁殖地の範囲を以下の図に示した。5月2日に比べ、6月7日では繁殖地が2倍以上に拡大していた。大まかであるが面積を計算すると、5月2日では14300平方m、6月7日では35700平方mとなった。また、6月7日には産卵も確認した。ただし、繁殖地内部には立ち入らなかったため、この時点での営巣数は不明であるが、後述のとおり、オジロワシの攪乱により巣立ち数は極めて少数と考えられた。



さらに琵琶瀬高台からケンボッキ島のウミネコ繁殖地の観察を行った。以下に日別での観察記録を述べる。



観察ポイントからの状況

【6月20日】オジロワシ成鳥1羽・若鳥4羽が頻繁に上空から攪乱していた。すでにウミネコの雛が生まれているようで、親ではなく雛を狙って、着地して雛を掴んで行く様子が観察された。



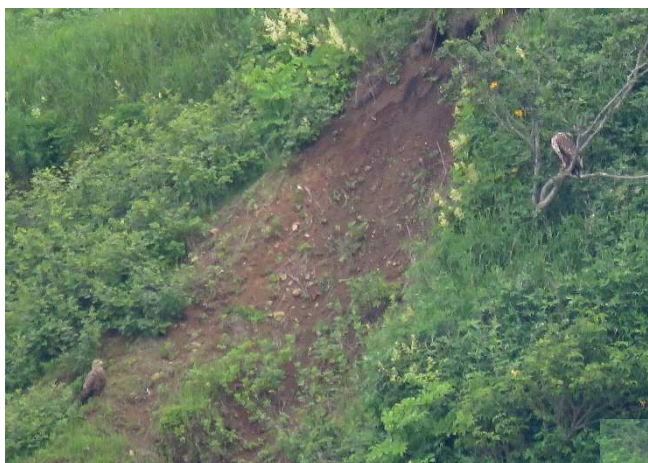
写真

雛を掴んでいるオジロワシ

【6月22日】オジロワシ成鳥2羽・若鳥2羽が頻繁に攪乱しているのを確認した。



【6月26日】オジロワシ成鳥7羽・若鳥6羽が頻繁に攪乱していた。若鳥は雛を掴んで運ぶこともあるが、着地したままで捕食もしているようであった。チリップ方面から成鳥1羽が飛来し、雛を掴んで2回運んでいった。



写真

ウミネコ繁殖地近くで待機するオジロワシ



写真

雛を掴んで運ぶ繁殖中の親？



【7月3日】オジロワシ成鳥1羽・若鳥6羽が攪乱するのを確認した。繁殖に失敗したと推察されるウミネコが、ケンボッキ島の砂州にウミネコが集まるようになった（下の写真の砂州の先の白いもの）。



【7月6日】オジロワシ成鳥3羽・若鳥8羽が頻繁に攪乱しているのを確認した。着地したオジロワシは歩きながら捕食しているようで草地を移動していた。繁殖地の密度が薄くなってきた。砂州のウミネコはさらに増えたことから、繁殖失敗が多いと考えられる。砂州の個体は15時半ごろから繁殖地に帰っていくようであった。



写真

複数で攪乱。密度が薄くなってきている。



写真

着地する若鳥。両側に 1 羽ずつオジロワシの顔が見える。



写真

砂州にさらに増えている

【7月17日】オジロワシ成鳥1羽・若鳥1羽が飛来していた。ケンボッキ島上空に飛来しているものの、ウミネコの総数は少なくなってきたように見えた。



【7月23日】オジロワシ成鳥2羽・若鳥1羽が飛来し、攪乱。さらにウミネコが減少しているようであった。



【8月5日】オジロワシの飛来は確認出来なくなった。ウミネコは100+個体が飛んでいたのみであった。



【8月16日】繁殖地にウミネコが確認出来なくなった。ただし、琵琶瀬湾にいたウミネコ57羽のうち5羽が幼鳥であった。少数が巣立ったようであった。



16日以前のウミネコ幼鳥の記録（いずれも少数のみが巣立ったことを示唆させている）

8月6日：アゼチ岬3羽。霧多布岬1羽。

8月7日：アゼチ岬1羽。霧多布岬1羽。

8月8日：霧多布岬3羽。

8月9日：アゼチ岬4羽。霧多布岬10羽＋

8月15日：アゼチ岬2羽。

8月16日：アゼチ岬3羽。

【まとめ】

ケンボッキ島における今年度のウミネコ繁殖状況は、ごく少数が巣立ったものの、大半はオジロワシの攪乱により繁殖に失敗したものとする。このため、引き続き観察を行う必要があると考える。

(2) コシジロウミツバメ

巢密度区分別のコシジロウミツバメ繁殖地の範囲を以下に示す。



このようにケンボッキ島全域にコシジロウミツバメ繁殖地が分布していることが示された。

各密度区分ごとに繁殖地面積を求め、それをもとに営巣数の概算値を以下のとおり得た。

巢密度区分 (平方mあたり)	総面積の概算 (平方m)	巣数の推定値
特大 (2.5±)	2167.5	5418.75
大 (0.5+)	12625.25	6312.625
中 (0.15±)	124879.5	18731.925
小 (0.05±)	59831.5	2991.575
特大 (0.01±)	4400	44
合計	203903.75	33498.875

面積をまとめると約 24000 平方mとなった。さらに巢密度区分より営巣数を概算すると、約 33500 巣と推察され、去年度の調査結果では、コシジロウミツバメの巣穴利用率は約 0.59 となっているため、推定繁殖数は約 19700 つがいと考えるのが妥当である。

ケンボッキ島が大黒島に続く大きなコシジロウミツバメ繁殖地を有することが確認されたため、今後も継続して調査を行い、適正利用に努めるべきであると考えます。

(3) 補足調査

5月2日にケンボッキ島においてコシジロウミツバメの繁殖状況調査を行った際、島の東部二カ所の斜面においてウトウのものと思われる堀かけの巣穴が多数発見された。その確認のため5月31日にこの付近にタイマー録音機と自動撮影カメラを設置し、6月7日にこれらの回収をおこなった。また同時に目視等で周囲の状況を確認した。



機器を設置した5月31日及びそれを回収した6月7日にウトウと思われる巣穴に新しい痕跡は見られなかった。また自動撮影装置には鳥の姿は全く撮影されておらず、録音機にもコシジロウミツバメの音声は記録されていたが、ウトウおよびコシジロウミツバメの巣内での声は記録されていなかった。そのため、これらの巣穴は今年始めて繁殖を始めた海鳥が掘ったもので、産卵まで至らなかったものであると考えられる。今後繁殖が期待されるため来年以降も同様な調査が必要であろう。



写真

5月2日の状況



写真

設置した機器